

第4回 滋賀県社会教育委員会議における会議概要

期日：平成23年11月9日(水)

場所：滋賀県大津合同庁舎7A会議室

1 開 会

○神部純一 滋賀県社会教育委員 委員長 挨拶

2 議 事

○「滋賀県社会教育委員会議」のまとめについて(骨子)

・「園・学校を拠点」とした取組の概要について(第二次調査)

・「園・学校を拠点」とした取組の概要について(学校訪問によるヒアリング)

○その他

3 閉 会

<出席委員(五十音順)>

今居委員、宇川委員、宇野委員、神部委員、千歳委員、他谷委員、富山委員、中野委員、納谷委員、西村委員、野一色委員、野口委員、松浦委員、山口委員

神部 滋賀県社会教育委員会委員長挨拶

皆さん、こんにちは。今回は本当に暑い中、堅田小・石部小と視察に行っていて、いろいろと見ていただいて有り難うございました。今回は、当初の会議のプラス1回ということで、視察をそれぞれ半分ずつ行ったので意見交換を含めてみなさんに集まっていたきました。今日は、本会議のまとめもありしっかりとご意見をどうぞ宜しくお願いいたします。

議事の概要

○「滋賀県社会教育委員会議」のまとめについて

【委員長】

早速、議事の方に入っていきたいと思います。今日がある意味、実質上最後だと思います。最後の会というものは、報告のできたものを最終的にチェックすることになりますので、本日は内容的に盛りだくさんのものがあります。慎重にご審議いただきたいと思います。皆さんご存じのとおり、今年は委員会2年目ということです。当然のごとくこの2年間の成果というものを「まとめ」として出さなければなりません。そこで今日は、滋賀県社会教育委員会議のまとめとして、どういう方法でまとめていくのかということについて事務局から骨子としてお示しいただいて、それに沿っていろいろと皆さんのご意見をいただきたいと思っております。内容的には、この2年間やってきた調査とヒアリングの結果となります。そういったものが中心で、その中にできる限り委員の皆さんの意見や考えを織り込んでいきたいと思っております。今日は、先ず、土俵の上に出していただかないと事務局さんの方でもまとめていただけ



ないこととなりますので、そういうことも意識しながら、いろいろとみなさんのご意見を伺いたいと思っております。どうか宜しくお願いいたします。

それでは、滋賀県社会教育委員会議のまとめ、骨子について事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

お手元の議事内容「滋賀県社会教育委員会議」のまとめについて「資料1」の骨子（案）を作成させていただきました。先程、委員長から話しがありましたとおり、2年間のまとめということで、（案）を作成したわけですが、内容についてお計りいただきたいと思っております。



「資料1」の骨子（案）で、全体構成は2年間のまとめとして5章編成にしたいと思います。先ず、第1章は「園・学校のために保護者・地域住民等が自主的に組織したグループ・団体の現状」として、第2回会議でご協議いただいた第1次調査について載せていきたいと思っております。第2章は、6月に調査をしました「園・学校のために自主的に組織したグループ・団体が「ない」理由」としたいと思います。これについては、第2次調査結果で、後ほどご説明をさせていただきます。第3章は「園・学校のために自主的に組織したグループ・団体の活動状況」です。これは、実際に自主的な団体が「ある」とした団体・グループの方々にお尋ねした内容について載せていきたいと思っております。この内容についても後ほどご説明をさせていただきます。裏面の第4章はケーススタディです。これは、第3回で皆さま方にご足労いただきました、堅田小学校と石部小学校とのそれぞれの訪問をケーススタディという形で2例載せていきたいと思っております。なお、第1章から第4章までの流れを見ながら、第5章を「総まとめ」総合考察としたいと思います。また、各章の最終柱として《 》、◎を付記しておりますが、各章のまとめになる部分ですので、説明の後にご意見等を頂戴できれば有り難いと思っております。

【委員長】

まとめの骨子の内容については、事務局（案）としては5章仕立てでやりたい。第1章が第一次調査、第2・3・4章は第二次調査とケーススタディ。第5章が、総合的なまとめということでした。これに関してご質問等がありましたらお願いします。

ないようであれば、この形で内容をこの中に書き込んでいくという形で進めたいと思っております。皆さまには承認していただきますようお願いいたします。

それでは、今日は内容が盛りだくさんですので、早速内容に入っていきます。第1章から第5章まで全部話を聞いてからになると話がばらけてしまうので、今日は1つひとつの章を1個ずつ潰していきたいと思っております。

各章に関わるデータや内容について第1～第4章まで事務局から話してもらい、それについて皆さまのご意見ご質問を伺い、最後に全体を通してのご意見をいただくという流れでいきたいと思っております。それでは、それぞれの章に集中してご意見をお願い致します。

【事務局】

第1章についてですが、皆さまの机の上にドッチファイルを置かせていただきました。目次ページの次に、右上に机上資料と記載した資料があります。それが、昨年度3月にご協議いただいた内容です。1ページ目は、「第1：自主的に組織したグループ・団体の属性」というもので、各質問に対して読み取れ分かった内容を上部の黒枠で囲っております。ご理解をお願いします。なお、第1章につきましては、前回お示ししましたので、詳しくは述べません。なお、それぞれの黒枠の内容と先程「骨子」でご説明いたしました用紙内容とが符合・対応するよう

にしております。

【委員長】

「骨子」の内容として記載してあるものが、報告書に載るといっていいのでしょうか。

【事務局】

「骨子」の内容を詳しくして、報告書に載せるということです。各章2から3ページぐらいで、記載していきたいと考えております。

第1章は、前回お示しをしましたので省略をさせていただきます。

第2章の説明をさせていただきたいと思っております。第2章は、今ほど説明いたしました「資料1」まとめの骨子の用紙、第2章として「資料2」、「参考資料1」の3種類をご覧いただきたいと思っております。右上に資料番号を付けておりますので、ご覧いただきたいと思っております。



○「資料1」の第2章「自主的に組織したグループ・団体が「ない」とした理由」

先ず、「資料2」の「園・学校のための自主的に組織したグループ・団体が「ない」理由」と「「ある」理由」との2つのことについてご説明をさせていただきます。なお、「参考資料1」については、各校園に対して、送付させていただいた調査用紙です。これは、委員の皆さま方に、調査のための質問紙を事前に送付させていただいた内容です。詳しくは、「資料1」と「資料2」とで説明をさせていただきます。

「資料2」の1ページを説明させていただきます。先ず、第1次アンケート調査結果ですが、これは、第2回委員会でご意見を頂戴した内容です。「保護者・住民等が自主的に組織したグループ・団体等で「ない」とした園・学校」が、そこに示していますグラフの白帯です。その結果、非常に「ない」という回答が多い。また、自主的に組織したグループ・団体が「ない」理由について、「①地域に団体がない」「②積極的に地域に支援を求めている」「③地域からの提案がないので、積極的に支援を求めていく」という回答から、②③の内容については、もう少し学校側に調査をする必要があるとのご意見がありました。それで、改めてこの年度になって調査をしました。その質問内容ですが、「②積極的に地域に支援を求めている」「③地域からの提案がないので、積極的に支援を求めていく」では、個人も含めて本当に既存の団体・グループからの支援が「ある」のか「ない」のかを、もう1度お伺いしたということです。

また、支援がない場合は、取り組んでいない理由は、何故取り組めないのかをお尋ねをしました。その結果がP2となっています。既存の団体による「地域に根ざし開かれた園・学校づくり」の取組の有無では、59園・校に対して質問をしております。第1次調査で「ない」という回答があったものについて、2/3を抽出して5月19日に発送しております。

その結果、49のグループ・団体等については、既存の団体・個人からの支援は「あり」との回答がありました。しかし、10園・校についてはありませんでした。その内訳については、下の表になっております。「ア 支援をお願いしたいが課題がある」というのが幼から中まで合わせて4園・校であり、幼・小はそれぞれ1園・校、中学校2校となっております。

「イ 支援をお願いする必要性を感じない」というのが、中学校に5校ありました。先ず、ここから分かったことは、上部の太枠で囲いましたように、個人を含む既設のグループ・団体による「地域に根ざした園・学校づくり」は、8割強で取組があるということと、支援が「ない」としたのは、中学校に多い。」という結果です。このことを、太枠囲みにし「資料1」の第2章に同じものを記載しております。

次に3ページになります。「取り組んでいない」理由をもう少し聞いてもらいたいということでお尋ねしました。「取り組んでいない」理由として、「支援で課題がある」が4園・校で、「支援をお願いする必要性を感じない」が6園・校で回答がありました。その内訳は、記載のとおり「情報が足りない」が4校、次に「コーディネートする人がいない」が3校、「予算が足りない」が2校ありました。次に地域に根ざした開かれた園・学校づくりで「必要を感じない」

は、1番下のグラフにあります、「ア 支援を受けなくても教職員だけで園・学校教育活動ができている」が5園・校で、「イ 支援をお願いすると園・学校に今以上の負担が増える」が4園・校でありました。

このことから、上の四角囲みに「支援をお願いしたいが課題がある」では、「情報が足りない」「コーディネートする人がいない」「予算が足りない」としました。「支援をお願いする必要を感じない」では、「支援をうけなくても教職員だけで教育活動ができている」「支援をお願いすると今以上の負担が増える」というような回答があったと記載をしました。

なお、私どもの方で、この「必要を感じない」「課題になる」という回答があった学校の方に直接管理職の先生にお尋ねをしたところ、いろんな失敗例や成功例などの情報が欲しいというご意見をたくさんいただきましたので、そこに「今後、成功・失敗など適切な情報が必要」であることを書かせていただきました。

この上部の四角囲みで記載した内容は、「資料1」の骨子の第2章にも記載しました。

【委員長】

先ずは第2章ですね。事務局から説明いただきましたデータをまとめた中で、これに基づいての考察が行われる訳ですが、説明を聞いて何かご質問がありましたらお願いします。また、こういう現状を捉えて、支援を活発・豊かにしていくためにはどうすれば良いかというアイデアというものをお聞きしたいと思います。如何でしょうか。

調査の1と2とを併せたら支援する団体が「ない」と答えていても、より詳しく調べてみれば、その8割が何らかの支援という活動をしていたというわけですね。

【事務局】

殆どの学校はPTAの支援を絶対に受けておりますので、この調査は、PTAならびに学校支援地域本部は除いております。よって、それ以外ということで限定しております。

【委員長】

大半の学校は、何らかの形でPTA以外の支援を受け入れているという捉え方ですね。これからは、やはり情報がポイントで「支援をお願いすると今以上の負担は増える」という部分では、経験してということではなくて、そういうイメージでの回答であると思います。固定観念的な部分があるのだとすれば、事務局が言われたようにきっちりとした成功例・失敗例だけでなく、正確なさまざまな情報を届けることで、こうした考え方が多少変わってくる可能性がありますと考えます。そこで、情報がまだまだ不足しているという分析であったと思います。

【委員】

中学校の方で、「自主的に組織したグループや団体」が少ないという結果ですね。なくても良いということ、若しくは、かえって学校の方に負担がかかるんじゃないかということで、その中で情報が少ないですが、現に失敗していることが沢山あるのではないかと思います。表に出していない部分で、私自身も今ボランティアで中学校に関わっているのですが、中学生はなかなか難しい年頃ですね。だから、関わり方によっても、一般のボランティアより難しい所もあるんですが、私が知りたいのは、中学生はどのようなことをして欲しいと思っているのかということです。中学校の方では、今、間に合っているから良いですよとなっているんですが、中学校であっても生徒の意見はなかなかあがってこないですね。

【委員長】

中学生、生徒が何を地域の人から支援を求めているのか。生徒のニーズというのは反映しているのでしょうか。教職員の意見だけからではありませんか。

【事務局】

生徒の意見を取るのは難しいですね。

【委員長】

教師側、職員側のニーズとなりますね。

【委員】

調査は、教頭先生がほとんど回答をされていますね。そうすると子どもたち、生徒がどのように思っているか分からないアンケートということになりますね。ただ学校現場で、図書館の本が整理されていて、すごく喜んでおられる実例なんかはあります。夏休み等にボランティアの方が、図書館をきれいにするために来られ、現場の先生が喜んでおられるということも聞いています。

【委員】

学校の代表として出ておりますが、現状から言えば地域の活動を支援していく場合、学校現場として仕事が増えてしまうということがあります。例えば、PTA活動ひとつをとりましても、全県下的なことはつかめておりませんが、一般的には小学校の場合は、結構PTA活動でも保護者の方が主導権を握って活動をされていることがあります。しかし、中学校の場合は、そのあたりが難しく、役員さんをお願いする場合でも、ある程度学校が主導権を握ってお願いしないと保護者の方に受けていただけません。PTA活動にはいくつかの事業部があり、学校の職員が中心になって動かしていかないとなかなかPTA活動が前に進んでいかないという現状があります。そのあたりのことを考えると、PTA活動以外にまた地域で活動を立ち上げた場合、石部小学校のように、いわゆる市の行政で専任のコーディネーターが入っておられて常駐され、1つの部屋を持っておられるという形であれば、中学校の方でも広がっていくと思います。ただ、全県下的にあのような活動を支援する市町が現在どれだけあるか私は十分につかんでおりませんが、もしPTA以外にそういう活動の部分を作った場合、事務局を学校がせざるを得ないという状況ならば、これは進め方にもよるんですけども、中学校の場合は、調査結果として出てきているとおりに難しいと思います。なお、小学校でのPTAの状況はそれほど違わないと思いますが、異なるのは、PTA活動は、子どもさんが小学校のうちは随分と熱心に活動しておられるのですが、中学校になるとある程度、中学校に任せてしまったら良いという意識もあるのではないかとことです。それで、このような調査結果がでたと思います。石部小学校みたいに専任のコーディネーターが学校に常駐して、その方が主導権を握ってやっていただくのであれば、今後そういう形のものが広がっていくのではないかと思います。現場のことを考えれば、大抵そういう仕事をするのは教頭や教務、あるいは地域コーディネーター等になってくると思います。今どんどんと学校現場に仕事が入って忙しくなっている中で、さらにその仕事をしていこうとなると、なかなか大変だと思います。

【委員長】

1つの解決策ですよ。情報だけではなく、きちっとした事務局というか、組織というものがあれば、うまく中学校の中でもその機能、負担感というものを感せず実施していく可能性があるというご意見でした。

【委員】

先程のご質問は、中学生の思いはどうかというものだったと思いますが、私には中学三年生の息子がおりまして、生徒会活動をしています。息子を通じて聞いていると、運動会などでは、びわこ成蹊スポーツ大学の学生さんが、たくさん来てお手伝いくださっているとのことで、中学生は、大学生のお兄さんやお姉さんが来られると、とっても嬉しくて、まわりついているような状態のようです。けれども、反対に、私たち親がPTA活動で学校に行くと、思春期のせいかわからない顔をされ、「お母さん何で来たの？」というような反応です。

また、私も詳しいことはわからないのですが、以前に大津市の教育委員会から「地域の人と一緒に何かやりなさい」ということが学校に課せられたことがあって、校長先生と生徒会が一

緒に考えた結果、地域清掃に中学生が参加することになり、生徒会が呼びかけ、実施されました。子どもたちが実際に地域に出て活動してみたら、地域のおじさんおばさんたちから随分と褒められ、中学生は素晴らしいと言われ、気をよくしていました。中学生は経験がないので、活動の内容に対しては事前に良し悪しの判断が出来ないので、結局は学校サイドの判断にまかせるしかないように思います。

【委員長】

経験から言って、たしかに思春期の中学生ですから、親が行くよりは地域の方が行った方が受けが良いということが、確かにあるのかも知れません。小学校と中学校とを比べると、小学校の方がうまく行っていて、根付いているんですが、その要因というようなことを感じることはあるのでしょうか。

【委員】

話を進められる前に少し良いですか。そもそも学校を助けるという論点はどうなんですか。拠点とした「Win - Win」の関係を地域の中で学校をどう位置づけるかというのが論点ではないのでしょうか。学校を助ける云々の話しだけではないと思います。現在、私の子どもは高校生ですが、小学校・中学校の折、PTAの具体的な活動のプリントが来て、こういう活動をし、こういうことをやるから協力してくださいなんてもらったことはないです。役員も、好きな人がやられるんだとか、上級生のPTAの役員さんの知り合いの友達の下級生の方がやられるみたいなことを思っておりました。そういう情報が足りなかったのも、こちらも知らなかったのも良かったのかもしれませんが、学校は手間がかかるとおっしゃるのかもしれませんが、もっと基本的に情報開示をして協力を求めるということができないのではないのかと私は個人的に思います。だんだんと子どもが大きくなったから学校に任せるということは確かにあるようですが、「何をしたら良いの、何をしたいの、何をすればどのようになるの」ということは、やはり受け入れ側の立場で言うと情報不足ということだと思います。

【委員長】

学校が地域の情報が分からない。同時に地域も学校が何を協力して欲しいのか、何が不足しているのかということが分からず問題点があります。

【委員】

石部小学校の活動の様子をあのように見せてもらおうと、すごい楽しそうやな。何かできることはないのかなというふうに思うので、保護者の人にもああいうようなものを見てもらう機会を作ると輪はどんどん広がっていくのかと思いました。学校を助ける助けるということを前面に出すと、先生の負担だけでなく逆に保護者の負担が被害者意識として出て来るように思います。このことを思わせないような何かしくみ、先程文字どおり言われたように「Win - Win」で地域として子どもを育てることが大切になります。

基本、「年寄りと子どもは地域で守る」。お年寄りの人には、自分が子どもの時に、育ててもらいました。自分が年寄りになって、地域の子どもは、あすを担ってくれるのだから地域で育てましょうというのが基本ですね。それを担うのはどちらも情報だと思います。その辺りの話はしなくて良いのでしょうか。

【委員長】

その話は、この部分ではなく最終的な課題、問題点として当然出てくる話なので、後の章で議論しましょう。おっしゃっておられることが十分これからの課題となるわけですので、まずは第1章のデータから読み取れるところや何か改善すべきことなどを検討していきます。最初は「Win - Win」の関係でなければ続かないものですから、単なる情報の提供というのは、ご指摘通り双方向の情報不足ということだと思います。学校側も地域にもっとオープンにしていたらかなければなりませんし、地域もまた地域の力とか持っている人たちの情報を

もっとオープンに交流することで、「何ができるのか 何が協力、お互い協働できるのか」がイメージできるわけです。このご意見は参考にさせていただきたいと思います。

【委員】

中学校の経験もあります。中学校代表の西村先生も言われましたが、やはり通学区域だけでなく、学習内容にしても、子どもたちが活動する内容にしても、そういった区域だけにとどまらずに結構学校の方にはたくさんの方が来られていると思います。専門的なことで学ぶ場合とか、企業さんから学びたいということで、地域というふうに限定した場合、その中でどう連携されているかという部分でアンケートをされたと思います。県内100校ある中の7校が「積極的に学校の方からは声かけをしていない」という回答だったのかと思います。全くされておられないのではなく、個人だったら地域からたくさん来られていると思いますし、授業では、選択教科で入って来られていたりとか、また出前講座とかもあります。

それこそ反対側からとなりますが、啓発の部分から言うと90以上の学校が積極的にやられており、そういった情報が交流されれば、自分の学校でも取り入れたいというものがあると思います。現時点で「ない」という学校はあるのだろうけれども、そのような意味の広がりというのは進んでいるのかということを感じました。

【委員長】

少し深まりがでてきたと思います。以上のことを事務局さんの方で取り入れながら第1章の方をまとめていただきたいと思います。

○「資料1」の 第2章「自主的に組織したグループ・団体が「ある」とした理由

【委員長】

続いて3章のあたりを見ていただき、ご意見をいただきたいと思うのですが、事務局さんよろしくお願い致します。

【事務局】

「資料2」の4ページのギリシャ数字のⅡのところです。「園・学校のために自主的に組織したグループ・団体の活動状況」については、「参考資料2」を基にしてアンケートを実施しております。なお、「参考資料2」については、調査をする前に送付をさせていただいている内容になっています。それで、4ページの方なのですが、「自主的に組織したグループや団体が「ある」とした調査」を、これも2/3を抽出して行っております。そこで、回答がありましたものがすべてで53園・校となっております。4ページに示しました項目で調査をさせていただきました。5ページなのですが、「支援するグループ・団体の属性」ということで、概要の説明をさせていただきます。

グラフで説明をします。「(1)グループ・団体名」では、「読書(読み聞かせ)」というものが小学校で多くなっておりました。また、「後援会・協議会」という組織でもって、グループ名が付いているというのが2番目に多い値となっております。「(2)グループ・団体の構成メンバー数」ですが、平均を下に書きましたように「特色ある活動」と「コーディネートする人が他にいる」とに分けて調査をしております。そこで「特色ある活動」では33人で、「コーディネートする人が他にいる」では313人と非常に多くなっておりまして。しかし、おしなべてグラフを見てみますと、11～20人の値が多くなっているのがグラフから読み取れます。「(3)グループ・団体の活動の年数」ですが、平均を上にかきましたとおり「特色ある活動」では14.4年、「コーディネートする人が他にいる」では11.4年となりました。しかし下のグラフを見てみますと、6～10年以下となっていることが分かりました。「(4)活動の拠点地」ですが、「園・学校を拠点にやっている」のはグラフを見ても多くなっていることが分かります。また、併せて、公民館・集会所など校区を中心に活動しているのは少なく、園や学校のために作った組織が多いのではないのかと思いました。「(5)構成メンバーに求められる資格等」では、下に表している内容となっております。とりたてて、このような資格が必要というものはござい

ませんでした。以上をまとめたものが、上部の四角の枠内の内容となっております。また、何回も言わせていただきましたように、その内容は「資料1」で記載させていただいております。

「第2 支援する内容等」についてP6をご覧くださいと思います。「(1)支援するグループ・団体の概要」です。「特色ある活動」をしているグループと「コーディネートする人が他にいる」というグループでデータをとりました。「特色ある活動」をしているグループでは、「イベントの参加(祭り・スポーツ)」や「環境整備・保全」といった内容での回答が多くなっております。そのグラフで右端を見てくださいと思いますが、「読書ボランティア」に関しての内容であり、「コーディネートする人が他にいる」場合の回答になっております。このように、「特色ある活動」では左側にシフトし、「コーディネートする人が他にいる」場合は、右側にシフトしていくという結果となりました。次に、P6の「(2)支援を実施するに至った経緯」ですが、「自主的・有志」が1番多くて、「要望・要請」「支援者からの提案」「設置者による提案・依頼」の順になっております。このグラフの1番目と3番目の内容は自主的な内容かと思われます。件数から見ますと2つを加えて19件となっております。また、2番目のグラフと4番目のグラフとを加えると18件で「依頼があって立ち上げた」と言えるのではないかと思います。要するに、立ち上げ率は、「自主的に立ち上げた」と「要請して立ち上げた」では、半々となる結果であると判断できました。次に、「立ち上げは個人からですか」という質問では、「個人からの立ち上げ」からと「個人からの立ち上げでない」からとでは、やや「個人からの立ち上げでない」という回答が多くなっています。「(3)活動を活性化するための研修」ですが、「ある」と回答したものが「コーディネートする人が他にいる」場合で研修があるとしています。「特色ある活動」をする場合は、研修は「ない」としています。なお、実施しておられる講座については、右に記載しております。P7の「(4)支援するグループ・団体の活動経費の調達」ですが、「補助・助成金」は「朝・夕の安全・安心のスクールガード」などについては、補助などがありますので、その回答があったと思います。また、「無償・なし」という回答が大半以上をしめているという結果となりました。「(5)実施・推進体制の仕組み」ですが、典型的なパターンを3つ載せておきました。53園・校で調査をしていますので、53通りのパターンが見られたのですが、その中から3つを代表としてとりあげさせていただきました。

【委員長】

第1は、「支援するグループ・団体の属性」で、とりわけご意見をいただきたいのは「支援する内容等」で、ご意見またはご質問でも良いので何かありましたらお願いします。この「特色ある内容」と「コーディネートする人が他にいる」との違いで、「図書館ボランティア」でこれだけの差がでることが、データで読み取ることができましたが、その原因みたいなことは何かありましたか。

【事務局】

幼稚園の大半と小学校の全てにおいて、図書館ボランティアさんは入っておられるという結果が出ております。そういうようなことで、やはり朝の読書ならびに図書館の整備というところのボランティアさんが、数字として出てきているのかと思います。

【委員長】

図書館ボランティアの殆どには、コーディネータがいるということですか。

【事務局】

地域で例えば数名の図書館関係のボランティアさんがおられると、月曜日はA校、火曜日はB校というようにコーディネーターさんがボランティアさんを手配し、コーディネートするという機能が発揮されていると思います。

【委員】

今、お話をお聞きして思っていたのですが、私自身、読み聞かせボランティアを経験したのですが、1回のボランティアで幼稚園だと絵本は2冊くらいを読んで終わります。小学校にしても絵本2冊くらいの時間帯しかいただけません。中学校での読み聞かせは、それほど簡単な絵本を読むわけではありませんし、どんなことになっているのか疑問に感じました。高度なテクニックをお持ちの方なら、ボランティアも可能だとは思いますが、読み聞かせのレベルの問題もありますので、中学校に入ることは少し難しいのかなと思います。

もうひとつ思ったことは、地域、地域と言いますが、私は地域を小学校区単位で考えることが多くて、子どもが中学校へ行っても、地域というのは、自分が住んでいる小学校区の意識が強いです。小学校でボランティアをやり始めたら、ずっと小学校に関わってきた人は、子どもが中学校へ行っても、そのまま小学校に関わっていると思います。地域の運動会も小学校区単位でされますし、中学校区というのは地域としては大き過ぎるような気がします。中学校区を地域と呼んで取り組むのかどうかということが、課題ではないのかなと感じました。

【委員長】

私たちにとりまして小学校区というのが、1つの日常生活圏にとりましての地域であって、小学校と中学校のエリアの違いというのも、おらが町おらが地域と言う意識が、エリアが広がるとそのあたりが難しくなると思われまます。それが小学校と中学校の差として出ているのかと思います。

【委員】

支援する内容についてですけれども、「読み聞かせ」「スクールガード」とか、継続的な活動になってきますと、私の経験から感じたことは、毎回子どもたちに顔を合わせることで、やっている方がやっぱりこれでは駄目だ、研修しなくてはいけないと思う訳です。自分たちの資質向上をボランティアをやっている本人の方が感じてくることが多いと思うのです。それが大事なことで、コーディネーターさんが居るとか居ないとか、勿論、居る方が良いとは思いますが、自主的にみんなでどこかへ行くとか、そういう機運が高まっていっております。そのように成長していくものなので、単発的な特別な活動でと言い切れないと思います。毎週、子どもたちの顔を見ていますと、こんなことをして良いのか。自分の力のなさを感じてしまうので、研修が必要になってきているのではないかと思います。

【委員】

私も、小学校に勤務しております、アンケートはデータの的に納得をします。図書のボランティアも私の学校にも来ていただいておりますが、例えば町内に1つの読み聞かせサークルがあるとすると、その団体が特定の中だけではなく、町内とか市内とか回れるところを順番に回っておられます。例えば絵本サークルでも、年間の活動の事業の中に組み入れて取り入れていただいております。その中に関わっていただくことで、私の学校もサポートしていただいております。グループが研修し、学校で絵本を読み聞かす。そして子ども等の意見等を持ち帰って、絵本の読み聞かせの技術を向上させる。そういうことがあって、次の機会に生かす。また、反応とかを感じながら進めていただいております。グループの資質向上の話は先程出ましたが、そのことを感じながら取り組んでいただいております。

また、私の学校も100年以上環境保全になりますが、「学校林」というものが続いております。枝打ちとか剪定とか、下草を刈るとか、そういう活動については、後援会が活動の母体になっているのですけれども、当時は単純な発想であったと思います。木材が学校を造る時の需要として、校舎建築のおかげになっていたということがあり、このことが脈々と続いている活動となっております。当初の母体なり後援会なりの組織がずっと続いているということもあり、学校からのこういうことに取り組んで欲しいという強い要請も、当然、続いていくだろうと思います。

さて、私の学校は、自転車の大会で県の代表として出て行っているのですけれども、地域の中でコーディネートしていただける方がおられれば、学校の教育活動だけではなかなかしんど

い状況にもありますので、もし要請が可能であればありがたいと思います。これからは、学校だけではできない状況であり、時代となってきました。ランドデザインや学校づくりが必要になると思います。先ほど、どなたかのお話にもございましたように、また後ほど課題になるとと思いますが、どのような地域の中の学校を、コミュニティスクールとも言われますけれども、どういう学校をランドデザインしていくか、これから後の論議になってくるのではないかと思います。

【委員】

私の知っている某中学校では、健康推進員さんをつかって、おやつ作りを健康・食育として、地域の方に入っていて、栄養指導をずっと前からやっておられる。学校もより開かれた情報を出し、指導のできる人材を呼んで、工夫していけば、より地域に根ざした学校づくりがなされ、開かれていくのかなと思います。

読書に関して単独での配置は難しいとは思いますが、小学校のボランティアの方がずっと中学校にも継続して、朝読書の読み聞かせのために来ていただくという流れができてくると良いのかと思います。コーディネートしていただく方がおられるかの有無が1番大事だと思っております。

【委員長】

そういう情報がいっぱい流れてくるのが大切ですね。特に、中学校でこういうことやっているよとか、こういうふうにやったらこういうようになったよ。また、今お話を聞いたような成功例が伝わり、情報が自然に流れると、またうちの地域や学校でもやってみようというように広がっていくのかもしれないですね。貴重な情報ありがとうございました。

【委員】

最初に申し上げましたように中学校に、今は関わっておりませんが、以前読み聞かせのボランティアとして入っていました。先程、中学校と小学校とでは、本を読むにしても違うんじゃないのというご指摘がございました。そんなことは決してありません。同じ本であっても中学生は、より深くそれを理解することができるということを、私自身が発見しています。とても小さい子どもが読む絵本でしたら無理ですが、普通の絵本でしたら、それを読み解いてくれます。この作者が、どういう気持ちでこれを書いているのかということも分かってくれているという嬉しさがありましたので、付けさせていただきます。

【委員長】

ここを私としても1番の問題にしたいと思っております。今まで「地域から学校へ」、一方ではやはり問題意識としては学校のための地域であってはならないと思うのです。へたをすると、学校のために地域があって、「地域の力を学校へ」と言うけれども、そうであってはならないと思います。やはり「Win - Win」で、それを通して地域の大人たちがいろんなことを子どもと一緒に学び、その学んだことがもう1回地域へと還元しフィードバックされていく。そこに循環というものが生まれ、お互い地域が活性すると、また新たな人が生まれ、そこから学校に関わると子どもが豊かとなる。そこで豊かとなった人が地域づくり・まちづくりに向かっていくという流れができていく。こういう活動というのが継続し、そしてより豊かになっていくものと常々思っています。そういう意味で学校ボランティアの活動が地域にどのように普及・波及しているのかということにあると思います。

【事務局】

P 8・P 9を説明させていただきます。「グループ・団体の園・学校以外での活動等」についてお尋ねしております。「(1)市町との関わり」で「特色ある活動」と「コーディネートする人が他にいる」場合とで調査をしています。「特色ある活動」では、「ある」という回答が「コーディネートする人が他にいる」よりやや多くなっております。「(2)-①学校以外の場合

（地域）やっておられる活動の有無」ですが、実際にあるというのは、やはり「特色ある活動」の対象園・学校で回答していただいているのが多くなっており、その中で「学校以外の場所（地域）でやっておられる活動の内容」は、以下に示すとおりに分けましたようになりました。この分け方は、3月の委員会でお示ししました4つのパターンですが、「施設メンテナー型」「環境サポーター型」「ゲストティチャー型」「学習アシスタント型」です。「施設メンテナー型」の中では、林道の整備をやってもらっていたり、「ゲストティチャー型」では消防団という活動をやっておられます。また、「学習アシスタント型」では、通学合宿をやってもらっている回答がありました。

また、「(3)支援するグループ・団体としての活動の状況」ですが、週あたりの活動の回数なのですが、学校への支援は1.5回、地域への支援は0.9回ということで、やや地域への支援は学校への支援より落ちるのかという結果となりました。P9です。「(4)グループ・団体の取組に関して何か参考にされたことやモデル例」ですが、「特色ある活動」では半分10件があるとし、また「コーディネートする人が他にいる」場合では、「なし」という回答が多くなっており、

4番目の活動の工夫ですが、「(1)グループ・団体の活動としてこれまでに工夫された点」ですが、「特色ある活動」では、人集めのためのチラシ・リーフレット作成や各区長と学校とで連絡を密にすることなどです。回答を読みますと「広報（人集めの工夫）」をして、ひいては、このことによって「内容の工夫（人の交流の工夫）」をしておられます。また、「コーディネートする人が他にいる」の対象園・学校では、「横断幕の設置」「グループの代表者と学校との連携」などを、「活動団体の周知による広報」では、内容を工夫することにより内容を焦点化するための広報をやっておられます。

【委員長】

思っていたより数値的に意外と地域の方へ目が向いていると感じました。これを皆さんはどのようにお感じになられ、どう考えていけば良いのでしょうか。ちなみに、1ヶだけお聞きしたいのは、問題は団体を作った時に、既にもともとそういう活動をしていた団体が学校に関わっていたのか、それともできてからそういう活動に関わるように新たになったのかということだと思います。

少し前に聞いたことなんだけれども、消防団なんかは、もともと消防団をやっている人が、学校ボランティアに関わっている。地域で消防団をやって当たり前なんです、私が一番知りたいのは、学校支援ボランティアとした新たに自分たちが立ち上げた団体が、最初は学校のために関わっていたけれども、いろいろな人間とかネットワークができて、それがだんだん地域の学校のためにやっていくようになった。あれもこれもやっていこうよというような形で、地域の方でもいろいろな形に関わるようになっていくというような、イメージがどんどん広がれば、「Win - Win」の学校にとっても地域にとっても良い活動となっていくのかと思います。

【事務局】

そのところは読み取れていないのです。例えば、学校図書館ボランティアさんでも、学校を中心にやっておられて地域に行かれたというケースもありますし、「おやじの会」のような形で、まずは地域でやっておられて学校に入って来られたというケースもあります。一概にも、どちらの矢印の方を向いているのかというのは今回のアンケートだけだと難しいです。

【委員長】

地域の方でも、学校支援ボランティアをやっている団体が、地域でも活動されているということはあるのですが。他の委員の方はどうお考えになりましたか。

【委員】

今回の課題は、地域の団体が学校を支援するというより、学校を支援するために新しくできたボランティアグループが地域でも活躍するということが、話のメインになるべきではないか

と感じています。

私は地域で（就学前の幼児の親子対象の）つどいの広場を運営しておりますが、以前に地域の健康推進委員さんが、つどいの広場で幼児の親御さん対象の食育講座をやらせてほしいと言ってきました。県推さんは老人福祉と食育（健康）、子育てをテーマにした催しを年に何回か実施されることになっていて、どこかでやらなくてはならないけれど場所がないということで、うちで実施されることになりました。今回の話は、このように、既存の団体が既存の支援施設で活動するというのではなくて、また、地域の中で学校が読み聞かせの拠点になるということでもなくて、学校を拠点にして結成された読み聞かせグループが、地域に出て行って他のいろいろなところで読み聞かせをされるようになったというところに意味があると思います。

「学校を拠点とした地域連携による生涯学習づくり」というのは、中学生が中学校で何かをするのではなくて、中学生が自分の小学校区で何か行動を起こす。私の住んでいる地域の中学校は、4つの小学校が集まってくる中学校なのですが、生徒会役員の生徒が4つの小学校区に分かれて、地域清掃や活動をしている。自分の学区に戻っていくのです。私は、それが一番、地域づくりとしてねらうべきところではないかと思います。学校が拠点、学校がきっかけということであれば、何をピックアップして議論していくべきか、もっと論点が絞れるのではないかという印象を受けています。

【委員】

私の地域で、全然関係ないかも分かりませんが、今年初めて学校応援ボランティアをしているというちらしを見ました。やはり分かりませんが、生涯学習課がいろいろな働きかけをしてくださっていて、今までからしていただかっていたと思うのですが、今年初めて新聞折り込みでチラシを見ましたので、いろいろと働きかけてくださっているんだと感じました。生涯学習のがんばってくださることが少しずつ地域に広がり、それを見てやりたいという人がすごく多かったですと聞きました。私はそのことがすごくありがたいと思い、ぜひ事務局の方に言わないといけないと思いながらやって来ました。それだけは本当にありがたいと思っております。

【委員】

学校で見守り隊さんというのはどこでもあると思うのです。ある町内会の中で、見守り隊さんだけが集まって、最初は茶話会のような顔あわせ的なことをされました。それをきっかけに、割と新興住宅街ですので顔合わせをすることをスタートとして、メンバーが次は保護者とつながらないといけないなということで、夏祭りをされたり、川の清掃をされたりして来られました。このように最初は、きっかけを作られ、地域活動の中で家庭・子ども・保護者・高齢の方というつながりができ、地域の活動に取り組んでおられる例がでております。いわゆる、学校がきっかけだということが、学校としてはありがたいし、広がっていくということもありがたいと思っております。

【委員長】

各地でそういう例はあるということですか。

【委員】

私たちの地域もお母さん方がいろいろ小学校へ行って読み聞かせなどにいろいろ入っています。今までは、学校側にそういうことを申し入れられない状況があり、やっぱり少し開かれてきて学校と協働を組んでおられると感じます。ここにも書いているように、グループでされている方が地域でされているということで広がってきているということもあります。しかし、仕事は持ちたいが子どもが小さいので、ボランティアとして出ておられ、小学校区のおかあさん方のやりがいにもつながっております。このことにより、お仲間もコミュニケーションも育つということの一旦につながっていると思います。「Win - Win」の関係は、小学校区の中にあると思います。中学校区で絵本の読み聞かせというお話がありました。とても力のある

方だと、中学生でも手に負えると思うのですが、今後はボランティアをこれからどう育てていくのが問題になってくるのかと思いました。

【委員】

学校側にこういう取組みをしているのですけれども、さしてもらえませんかとお願ひに行った時に、学校側は冷たく接するのではなく、そんな活動をしておられるのならばひやってみてくださいというような対応をしていただきたいと思います。平素から包容力のある関係ができていて、活性化できれば素晴らしいのではないかと思います。私は、健康推進員なんですけれども「人形劇」をやらせていただいている、この間も祖父母学級でおじいちゃんおばあちゃんにも感激していただいて、すごく喜んでいただきました。「こんな活動やったら私もやりたいわ」というおばあちゃんもおられて、そういうことが開かれたことになるのかなと思いました。

【委員長】

今、全く話しのおりで、事務局さんは、この部分はかなり力を入れて、こういった我々の思いをぜひこの報告書の中に反映をさせていただきたい。学校に対して地域の力を導入して豊かな子どもを育てる。でも一方向で終わるのではなくて、やっぱりそれを通して大人たちも学び、それが地域を活性化させていくという関係づくりの中で、こういう活動というのが有効であると思います。より輝きを増していくという意味では、「学校以外の場所（地域）でやっておられる活動であり」という数字 73.1%というのは、これからの可能性を示していると言えるのかも知れません。良く言えば、さっき言ったように既存、もともとこの活動をやっている団体がこうやっているのか、それとも「きっかけ」がそこにあって、それがこういうふうに広がっていったのか。これからの活動の課題あるいはあり方として、そのあたりを少し、今出てきた意見などを反映させていただきながら書いていただくとありがたいと思います。

【事務局】

P10 です。「第5. 将来に向けての展望」ですが、今までのアンケートにつきましては、グループ・団体の代表の方に回答をしていただいております、学校・園からの聞き取りです。それで、今後の取組についてですが、将来の展望で、やはり「メンバー・ボランティアとりわけ若い人の発掘」が必要であるという回答を得ております。次に「問題点や課題」についてですが、学校支援する場合の「問題や課題」ですが、「特色ある活動」の場合では「メンバーの確保」が、また、「コーディネーターをする人が他にいる」場合でもやはり「メンバーの確保」が得られております。

次に P11 になります。これからのアンケートは、また学校・園に戻っての管理職さんからの回答です。双方向のコーディネーターさんの有無です。「特色ある活動」の場合では、双方向にコーディネーターする人がおられますかということで、学校サイドに聞いています。そうすると6園・校から回答をいただきました。「コーディネーターをする人が他にいる」の場合では、27園・校中27園・校と回答をされるはずですが、回答は15園・校ということでした。誰がコーディネーターをしておられるかということが、十分に学校サイドとしては把握できていないことだと思われました。

次に「2. 取組の成果」について聞いています。「(1) 学校支援への取組の成果」については、4段階等分割法で聞いています。「大変役立ったー役立ったーあまり役立たなかったー役立たなかった」で調査をしています。「大変役立った」「役立った」では、53件中「大変役立った」の30件と「役立った」の17件とを加えて47件となっております。次に、論文体・自由記述で「(2) 学校支援への取組の成果」について聞いています。そのまま平文で書かれた内容を、分類をして記載をさせていただきました。「特色ある活動」の部分では、「つながり」「伝統」「子の姿」、また「地域の教育力」という回答で分けられと思いました。また、「コーディネーターをする人が他にいる」の対象園・学校の回答内容では、「読書活動」「地域の支援」「安全指導」というような順になるのかと思います。

次に P14 ですが、「3. 支援を受けての変容が見られる点 等」では、「特色ある活動」の

方では、「学校」自体が変わっていった。また、「地域の支援」が、「環境施設維持管理」が変わってきた。また、「つながり」ができた。「子の姿」ができたという回答でした。「コーディネートする人が他にいる」場合には、「読書活動」「つながり」「地域」「学校」等々がそれぞれ変容してきたという回答が得られております。

P16 ですが、「(1)園・学校として当該団体・グループの広報の有無」についてですが、どういう形で「広報」をしていますかということ聞いています。これは、学校サイドに聞いているのですが、「特色ある活動」をされておられる場合でも、「コーディネートする人が他にいる」場合でも、学校サイドから広報をしておられます。まだまだ十分ではなく、「していない」という回答もありました。

「(2)広報の仕方」ですが、「学校通信（だより）」「学年・学級通信」「ホームページ」「PTA 総会紹介」などの順で地域方に啓発しているとの回答が得られております。

以上のことを受けまして、P11 の上部の黒枠のところのポイントとなることを載せました。

【委員長】

「将来に向けての展望」「学校支援の取組成果」ということで、学校側から見て 47/53 が「役立った」というふうに回答しています。また、いろんな形でこういうふうに変化があったという内容が自由記述で出てきております。課題としては、「新たな人材の発掘」というところが共通しているところでした。なかなか学校支援ボランティアだけではないかもしれませんが、最初に意欲のある人が活動していて、その後は付いて行かれないというようなことはありませんか。

今は時間的に難しいかもしれませんが、データとしてそんなに悪い印象を持たれているという結果にはなっておりません。それなりの成果は上がってきているという結果が得られているというようなことで、まとめるということによろしいでしょうか。

最後に、まとめとして総括してお聞きしたいので、次はヒアリングの箇所に入ります。

○第4章「園・学校を拠点」とした取組の概要について（学校訪問ヒアリング）【資料3】

【事務局】

第3章ですが「資料3」です。後ほど第5章の総合考察のところ、委員の皆さんにはご意見をいただきたいと思っております。夏の暑い時期に、見ていただいた2校について説明をさせていただきます。先ず「資料3」の P1 です。「特色ある活動内容」そして「コーディネートする人が他にいる」というようなことで、A タイプ・B タイプということで、2つの学校を見させていただきました。A タイプは堅田小学校。B タイプは石部小学校です。P2 それぞれの特徴については、太枠で囲ってある部分が非常に特色ある内容になるのかと思っております。

A タイプの堅田小学校では、そこの1番下にかきましたように、①学校支援が地域活動やまちづくりへ発展している。②PTA等の別団体との連携がされている。

B タイプは、石部小学校で、学校支援地域本部で今は実施しておられるのですけれども、立ち上げは、「このゆび と～まれ」が10年前から、「いしべっこ」が16年前から実施しておられます。その活動の後に、学校支援地域本部が入ってきたということで、現在は、2つの事業を含めて1人のコーディネーターがやっておられ、「コーディネーターが他にいる」という形になっております。P3 がそのまとめの部分ですが、1枚にまとめるとこれページだけになってしまいますので、なかなか理解しにくいのではないかとこのことで資料をつけました。

P4 を見ていただきたいと思っております。A タイプの堅田小学校の内容から説明をさせていただきます。堅田小学校の「おや連！」についてですが、①お父さん方は力を持っておられるにもかかわらず不参加者が多い。担ぎ出す方法はないのか。②女性ばかりのPTA組織ではなく、おやじの活躍する場である「おとうさんクラブ」のようなものを立ち上げたい。③お父さんの頑張っている姿を見せたい。④仕事等の関係でPTA活動への参加は難しいが、何か「小学生とその子どもたちに貢献したい」という思いを具現化するために発足した。モットーにしておられることは、「できる人が できる時に できることを」です。具体的にはどのような経

緯かという、先程述べましたように堅田小学校の「おや連！」の願いになるのですが、発足が6年前でPTAの会長・副会長がキーマンとなって、女性ばかりのPTA組織ばかりでなく「お父さんクラブ」のようなものを作りたいとのことで、児童の保護者全員にアンケートをされました。(問)「お父さん方で、「おやじの会」を立ち上げた時に「参加いただけますか」、(問)「こういう形ならば参加できますか」という質問に対し、「お父さんも頑張っている姿を見せたい」という意見や「PTAの役員さんにかえて負担をかける」のではというご意見があったということです。その中で、正式なPTA活動は堅苦しい。また、気楽な気持ちで参加したいとのことで、キャッチコピーができたようです。名称については、以前から地域に根付いている「湖族」というようなものや「おとうさんクラブ」というような意見もあったのですが、最終的に「おや連！」になったようです。メンバーは、小学校の子どもさんが卒業されても残っていただけるようになっており、地域の方になっております。今は、卒業生と在校生1：1の割合で入会されておられ、人数は14～17・18名がグループのメンバーとなっております。会則・規約等もないとのことで、組織もそこに書いてあるような組織となっております。活動の実績ですが、平成18年度から「流しそうめん」「学校正門のペンキ塗り」「グランド隅にある木の遊具づくり」「スポーツ教室」「思い出のランドセルギフト」「足型フットマーク設置」などとなっています。また、学校の文化祭等々にも「わいわい祭り」というのがありまして、そこで「おぼけ屋敷」をやったり、地域の湖族まつりでは「湖族船競漕」をされ、ホームページからとりました内容を掲載しておきました。また、地域のまち歩きウォッチングをし、堅田の名所旧跡を子どもも参加してウォッチングしておられます。P6になります。活動の成果ですが、①「流しそうめん」では、親子も喜ぶ顔が見られました。②足型フットマークの取組では、安全についての意識付けができました。③「思い出のランドセルギフト」では、国際理解につながりました。あと④～⑦の成果があったと言われています。そして、課題については、①メンバー増加につながる仕向けをする。メンバーがなかなか揃わない。②地域に貢献し得る組織へと発展させていく。まちづくりについては、やっておられているのですが、もっと発展をさせたいということでした。③活動に際して、学校の先生にお世話になっている部分がある。イベントをするのに印刷物を配布する。そのために輪転機を回すのも、学校の物を借りないといけないということから、そこらあたりも解消できないかとのご意見がありました。次は「3番目 地域連携を成功させるために」ということで、こちらが分かったことは、先程も述べました①モットーを大切にする。②PTA保護者であってもOBであっても関係せず入会ができ、自由参加できる。③学校を良くするために、学校を拠点にして「会員自らが楽しむことが大切である」と言われておられました。おもしろくなかったらやっても意味がないと言っておられました。④PTA役員会と団体役員会とは、同一時間帯に会議を学校で開催する。先生方に御迷惑をおかけしたくないので、同じ時間帯に別の部屋を借りて実施すると言われていました。⑤PTA活動ではない、「おや連」という視点から組織し活動し、まちづくりのために「堅田まち歩きウォッチング」などをやっているとのことでした。⑥立ち上げのためのPTAのOBで火付け役がいた。この火付け役というのがキーワードになるのかと思いました。この方を中心にコーディネートをされている。⑦「楽しいことを提供する」ことで輪が広がり、機材も会員個々のネットワークで借りることができていた。当日、参加していただいた委員からもご意見ならびに補足をしていただきたいのですが、P5のそうめん流しの全ては見えていないのですが、竹を切って持って来る訳なんです、竹の運搬用のパッカー車等も、おや連のメンバーの友達に頼んで持ってこられているということで、ネットワークがうまく連携・機能しているというふうに思いました。

次にP7の石部小学校の場合です。石部小学校の願いは、問1・2に書きました。〈問1〉「今日は、何人の大人の人と話をしましたか。」〈問2〉「あなたは最近、自分の子ども、家族以外の、何人の子どもと話をしましたか。」という内容を常に地域の人に伝えているというようなことです。そこから「もっと顔見知りになってもらいたい」というモットーがあります。各学校応援団の設置・運営等の経緯ですが、先程も述べました、①10年・16年前からそれぞれの活動がありました。②平成20年度から学校支援地域本部事業ができた。それを充実させ

て、昔から続いている事業が吸収し入っていったという形です。③家庭・地域・学校の『育ちのトライアングル』が必要ということで、地域の人と顔見知りになり、「つなぐ」という活動をしていきたいというコンセプトがあるとのこと。④子どもは「自信の源泉」が低く「自尊感情」をやっぱり変える必要があることから、道徳教育を切り口にして自信を育てる教育。そして、「学びの土台」・「こころの土台」・「くらしの土台」を支える教育をコンセプトにしている。⑤立ち上げ式等についてですが、「立ち上げ式」のために準備会などを何度かしておられる、また「立ち上げ式」当日は自治会区長、PTA、スクールガード、商工会、老人クラブ等の各種団体が見守りながら実施をされた。⑥応援団員等のPRグッズですが、スクールガードのための帽子、PR用に自転車のカゴに付ける啓発物、幟旗を作成したということです。⑦湖南市としての取組としては、総会を年1回、本部役員会を年4回実施しておられます。また常会を月1回開催しておられます。⑧ボランティア室（応援団室）というものを持っており、コーディネーターさんが常駐しておられます。また、ボランティアの方が休憩をさせ、情報交換されるという部屋になっております。⑨地域の人と顔見知りになるということで、その下に書いている内容について活動をしておられるということです。

(3)の絵については、カットします。P9の(4)の学校応援団の種類と学校からの依頼内容についてのボランティア例ですが、見守りボランティアから学生ボランティアまで各種方面の内容をやっておられます。また、石部小学校の学期別ボランティア依頼内容につきましてもそこにあげておきました。1学期、夏休み、2学期、3学期には、このようなボランティアさんが入ってやっておられます。

なお、当日寄せていただいた折には、2種類のボランティアをやっておられました。一つ目は、その写真のようにトロンボーンを吹いている人がいるのですが、ピアノとトロンボーンを学生が昼休みに演奏し、そこへ子どもたちが寄ってくるという活動です。二つ目はP11にありますように「竹とんぼ」をとばしている写真がありますように、実際に「竹とんぼ」を地域の方が作ったものを飛ばしてみようという取組をしておられました。

活動成果になりますが、①常会・本部役員会・全員集会が定着した。②当初よりボランティアが増えた。③行事内容が充実した。④子どもと大人が顔見知りになることができた。⑤広報活動により活動が知られるようになってきた。石部小学校の場合は、回覧板だけではなく、新聞社2社に学校のできごとを折り込みチラシとして入れていただき啓発をしておられる。また、人が集まる散髪屋とか医者とかにカラー版の啓発冊子というか、学校でやった内容のファイルを雑誌の横に置かさせていただいているというような活動をやっておられます。⑥子どもたちが大人の人と接する機会が増えて「地域の人と顔見知りになり」、つなぐ活動が増えてきたということです。⑦ボランティアの人が入ってもらうことにより、子どもと地域の方が多くの方と顔見知りになれたということでした。当初、モットーとする顔見知りになるということが、徐々に深まっていることを聞きました。次に、課題については、当初は、①「学校は敷居が高い」ということを、なかなか地域の方から崩していくということが難しいので広報活動につとめていくというようなことをおっしゃっておられました。②ボランティア同士の交流の場。PTAとボランティアの交流の場を持って、学校・家庭・地域の協力体制を整えているとのことでした。特に、課題として注目すべきなのは、⑧教職員が変わっても継続する応援団組織の構築です。校長先生が今年ご退職されるということで、校長先生の思い。ウェイトが大きかったのかと思いますが、学校のビジョンがはっきりしないこういったことは広がっていかないのかと思いました。校長先生自らは、退職にあたり今後もうまく繋がっていくのかご心配をしておられました。

次に、「第3. 地域連携を成功させるために」ということで、その9点ばかりあげております。①管理職のビジョン。今ほど言いました内容です。②コーディネーターの常駐とボランティアも含めくつろげる部屋の確保。③いま②で示した部屋は、監視のきく部屋なのかということです。人の出入りが良く分かるところが良いのかと思います。④学校は、地域の方々、子ども、保護者とを「つなぐ」という活動を重視していくことが肝心です。⑤教職員が転勤しても持続可能な組織を構築していくこと。⑥活動の記録を残しておくこと。昨年度大根をいつ収穫したかとか、大根パーティをいつ行ったなど、昨年のメモをしっかりと残しておくこと今年も

それを参考に活用できるとおっしゃっておられました。⑦地域全戸に対して啓発していく。⑧PRグッズを作成していく。⑨いろいろな組織・団体に入っていて、意見をもらうということが大切であるとのことでした。以上、成功するためのポイントを9点ばかりあげさせていただきましたが、この後、視察に参加された委員の方で補足をしていただけたらと思います。

【委員長】

私は石部小学校へ行ったのですけれども、堅田の方では「おや連！」ですか、活動成果とか連携とかを見ると、それぞれの子どもたちだけでなく、地域の「活性化」につながっているとか、子どもたち以外の部分で活動が広がっているというような例が出てきているようで、そういう点に注目しながら、報告を聞かさせていただきました。今、簡単ではありますが、それぞれの事例を見ていただいた中で、こういう部分をもう少し強調あるいは取り上げるべきだとか、このあたりをこれから参考にすべきだというようなところで何かご意見、今の説明に対する補足などがありましたら、是非出していただきたいと思えます。



【委員】

基本的なことかもしれませんが質問します。学校に常駐されているコーディネーターさんというのは、ボランティアの方ではないと思いますが、どこからお給料をもらっておられるのかということと、どこが雇われておられるのかということが知りたい。また、小学校がコーディネーターが欲しいと言われた時に、今の段階で配置することは可能ですか。

【事務局】

石部小学校の場合は、学校支援地域本部事業を受けられたのです。それで、市の予算の中で各校1名ずつ常駐をしておられます。

【委員】

それは、いつまでということはあるのですか。

【事務局】

実は、この事業が国・県・市町による1/3ずつの補助で成り立っております。その3者のうち、どこかがお付き合いができませんよとなった段階で、継続できません。その時は、市が丸っぽお金を出すとかという形になれば、それが継続していくのかなというふうに思います。または、市だけでなく地域のための団体が、みなさんがお金を拠出して、そしてコーディネーターさんを雇うとかという形になれば、それは継続するのかなと思います。

【委員】

現状では、石部小学校の場合は、今後もずっと継続していくという可能性は高いのですか。

【事務局】

あとは、地域内の盛り上げ方によってどうなるかという部分については、こちらの方で聞き取りができていないので、分かりかねます。

【委員】

国と県については、来年度そのまま補助金を付けていこうという方向ですか。

【事務局】

国と県については、来年度そのまま補助金を付けていこうとして動いてはおりますが、まだ確定ではございません。県の方でも、現在予算協議をしている最中で、来年度もほぼ付くであろうというように考えております。

【委員】

他の地域がうちもやりたいと言っても可能なのですか。

【事務局】

それは、市町もそれぞれ1 / 3の補助が要りますので、その時にそのお金が捻出できるということであれば可能なかと思えます。それは、財政等のかかわりがございますので、一概に可否については私どもの判断ではできかねます。



【委員】

つまりコーディネーター等を設置しようと思っただけなら、各市町村が先ず決めなくちゃいけないのですか。

【事務局】

学校支援地域本部というものを活用しようとするればそういうことです。

【委員】

両方とも小学校には行けませんでしたの、質問させてください。堅田小学校の「おや連！」なんですけれども、この「おや連！」に参加されるのは、PTA か PTA の OB の人ということなんですが、例えば、全然違う人が地域にぱっと来て、この組織に所属したいという場合。子どもが堅田小学校の卒業生や在校生でない場合、地域の人がそれに属するのかどうかという質問です。また、石部小学校の方では、これだけボランティアやスタッフが入っていると、保険のことで、ボランティアに参加するにあたって自分で保険に入らないといけないのか、それともどのようにしているのかと言った2点について教えてもらえますか。

【副委員長】

堅田小学校に寄せていただいて、聞いたことは、PTA の役員さんでないとは駄目であるとか、そういうことではなかったです。関心のある方なら誰でも入っていただけるということでした。今、PTA の現職の方と OB の方とは、1:1 で半々の割合であるとおっしゃっていました。今代表しておられる松田さんは、大津市の職員さんで、誰でも気楽に入れるという組織だと感じました。

【委員】

まだ、入られていないということですね。OB と PTA が 1:1 ということは、まだ地域の方で堅田小学校の関係者以外で入っておられる方はいないのですか。

【副委員長】

子どもさんが堅田小学校に入って、卒業し中学生・高校生になってもそのまま堅田小学校の活動に参加しているということになります。代表の松田さんは、元々瀬田の方だったと言われておられました。もともと堅田ではないのだけれども、ここに入ってくるようになり地域づくりに参加するようになったとおっしゃっていました。

【委員長】

ボランティア保険についてはどうでしたでしょうか。

【委員】

確か入っておられるようなことをおっしゃっておられました。学校がボランティアの登録をする時に必要なので、確か学校が入っているとされたと思います。

【委員】

石部小学校でおもしろいとおもったことは、学生ボランティアが応援団に入られているということで、私の大学であれば、〇〇小学校が、スキー教室をやるからボランティアを寄越してくださいと言われると、授業のある学生に授業を休んでまで行けとは言えません。そういうことから考えると、興味のある学生が、小学校ごとにこのようなボランティア組織があれば、その組織に所属してもらおう。自分の空いている時間に、いろいろな活動ができるということも OK なのかなと思います。そうすると、その小学校だけになってしまうのかもしれませんが、ボランティアのあり方として、ひとつの小学校がボランティア団体を持っているということは大きな意味があると思います。個人的に学生のためのことを考えると、特に地域で、自分の出身の小学校区であれば良いのだけれども、うちの大学の周りにそのような組織があれば良いと思います。今、大学の近くにある中学校では、自分の専門性に近い、将来教職を採りたいという学生たちがボランティアで行っているのですが、それとは別に、地域にということを考えて、このようなボランティア組織というのはおもしろいと思います。

【委員長】

本当に子どもたちが集まり、いきいきと楽しそうにしていました。学生さんに関することで、その他ご意見や強調すべきことがありましたら宜しくお願いします。

【委員】

私は、堅田小学校の方へ行かせていただいたのですが、PTA 組織がありながら、新たに組織が作られたというところにすごくポイントがあると思いました。そのポイントが、「できる人が できる時に できることを」という自らの姿勢を生かされることだと思います。与えられた PTA から脱却されていることと、私は、石部の方は行かせていただけていないのですが、多分校長先生は道徳委員をされていますよね。校長先生は、すごくリーダーシップをお持ちの方であり、そこにも「できる時間に できること」という両校同じフレーズで行動しておられると思いました。やはり自分たちが活動する時に、ボランティアは、小学校のあいだは、まだお仕事を持っていないときは活動ができるのですが、お仕事を持ってくると、社会に貢献する人であればあるほど、地域のことができなくなっていってしまうという現状があります。それで、「できるときに できること」ということで、幅広くされると年1回だけは、これだけはやってみようということが、両方のポイントだと思います。堅田小学校では「できる人が できることを できるときに」がすごくアピールされていたので、それが PTA とは異なる点で、すごく印象に残った面です。これが、1つのポイントになってくるのではないかと思います。



【委員長】

そのあたりが結構ポイントで、ボランティアの方には、結構のめり込む方がおられて、本末転倒の方がおられるのですが、結局、一生懸命になるがために地域のこどもたちのことをやってやってやって、自分の家族をないがしろにしている方がおられます。それでは意味が

ないのですが、家族と自分の選択性というものを、きちっと守った上で、残った力をボランティアへというような緩さというようなことでないと、何のためにやっているのか分かりません。子どもを犠牲にしてボランティアをやっているというのも、またおかしな話ということで、結構学校支援ボランティアでは「いつでも やれるときに やれることをやれば」良いのですよということではないと長続きしないと思っております。このことは、本当に大切なことですね。

【委員】

まとめのところなんで、トータル的な意見を言わせていただくと、私は産業界の代表で来ているのですが、産業界では産業支援プラザというものがあります。結局、地域の人にもどういうことをやりたいのか聞いてあげてください。学校側から言うと、関係ないことでその相手をするのもマンパワーがかかります。結局そのニーズとシーズをマッチングする部門がコーディネーターだと思うのです。それが各校に居なくてもよいんじゃないかと思います。要は例えば、教育委員会に行って尋ねれば、こういうことができますよ、こういうことが欲しいですよという部分の組織を作ってもらって、そこに要望のこんなことができますよとかこういう人がいますよというようなことも整理して、コーディネートしてマッチングしていけば、マンパワーがなくても学校と地域を結びつけられるのではないかと思います。結びつけていくと結局、顔見知りが増えていったりすると地域の防犯性も上がっていき、いろんな波及的な効果がでてきてその「Win - Win」の関係に近づくというふうに思います。ずっと見せてもらっていてマッチングできる組織体。いわゆる産業界のプラザみたいなシステムを、教育へ持って来れないのかと思います。震災で、ボランティアの参画意識は、圧倒的に上がっているのですが、震災というインパクトの強いことがあるとみんな東北に行こうと思うけれども、自分たちの地域の学校でもそういうことが一杯あるということのアナウンスメントしてあげたら、もっと声があがるんじゃないかと思います。情報をどうするかとのマッチングを考えれば、もう一寸できるのではないのかと、学校訪問やみなさんの意見を聞きながら思いました。



【委員長】

確かに、コーディネーターがいる所は良いのですけれども、いない所はどうなんかという話になった時に、今おっしゃられたように1つの現実的な策として、1つの1本化する大きな窓口があって、そこで割り振りをしていただいて、いる所といない所との格差を解消していくことにすれば、1つの考え方かもしれません。

【委員】

活動が順調に行けば予算もたくさんとれるようになってきて、各校までとはいきなり行かなくても、その地域で2～3校のかけもちのコーディネーターということにもなります。

【委員長】

1つの例として滋賀県でいうと、学校支援ディレクターさんみたいなものですか。その人は、学校と企業とをうまく結びつける良い役目をしておられます。どこか、ああいう人がいるとうまく機能するのではないかと、1つのアイデアとして確かに思います。

時間の関係で、全体の総合的な部分にも関わりますので、簡単に事務局さんの提案を聞いて、それに対して補足とか、またみなさんの意見を出していただいてまとめたいと思います。

○第5章 園・学校を拠点とした地域づくりの可能性

【事務局】

「資料1」の裏面の第5章になります。当初の部分でも述べましたとおり、第5章は総合考察・まとめにしたいと思います。それで大きく3本柱でとっております。最初は、1本目の柱で「地域連携を成功させるために」に関しては、アンケートにも出ていましたように、経費の部分や学校経営（明確なビジョン、教職員の理解）ということです。やはり人に関しては、ボランティアできる人が欲しい（とりわけ若い人が欲しい）という意見がありました。要するにボランティアの確保・活動拠点の確保・PR・地域への理解促進・打合せ時間の確保というものがありません。立ち上げ時の自立と依頼。「できる人が できる時に できることを」というような内容。誰もが会員として参加でき、会員自らが楽しむという意識の醸成。役員会の工夫。地域連携とネットワーク。「Win - Win」の関係をいかに築いていくかという内容を含めて、この章の内容の1つの部分を書きたいと思います。



2つ目は、「総合的なコーディネートができるしくみの構築」という部分から、コーディネーターの配置・「まちづくり委員」や「市役所職員（例えば公民館主事）」など、地域の人材をよく知る者の対応・コーディネーターと学校との円滑なコミュニケーション・人材発掘と育成というように書いてはどうかと思っております。

最後にやはり学校を拠点に地域へということで、「まちづくり機能の充実」を考えております。自主的に組織したグループ・団体の地域活動への貢献。「よい学校は、よい地域にある。よい地域は、よい学校をつくる。」という青森学院大学の高橋 興という先生の言葉ですが、滋賀県にも何度も講演に来ていただいています。この先生のモットーとしておられる言葉を引用させていただきました。そういう精神かと思っておりますので、最後に書かせていただきました。

【委員長】

ざっとここまで、急ぎ足で見てきた訳なんですけれど、ここまでの意見を聞いて3つ。「地域連携」「総合的なコーディネート」「地域づくり・まちづくり」そういったところへの普及と言いますか還元・フィードバック。（案）としては、3つぐらいの柱で、今後の学校を拠点とした地域づくりの課題・可能性というものを示していきたいというようなご提案だった訳ですが、これに関わって、みなさんどうお考えでしょうか。他にこういうことも、あるいはこの柱の中で是非こういうことも書いて欲しいということがあればあげてください。

【委員】

やはり、社会教育の面から何ができるのかというようなことを入れることで、そういった地域づくりとつながっていくと思います。例えば、先日の県の研修会の中でも、神戸学院大学の今西先生が「知の循環型社会」ということを進めるようにとのお話しをされておられました。例えば、地域の公民館の自主サークルさんが、自分たちが学ぶだけではなくて、それを地域・学校を含むと思います。地域に生かし循環させると述べられました。学んだことを、次に「つなげる」ようなことを、ある意味義務づける。そういう部分で、沿うものであれば、循環をさせていくようなしくみを基本的につくってしまうということが大事なのかと思っております。先日、学校でふれあいまつり、地域のふれあいまつりがあったのですが、今年から公民館のサークルさんが一緒になって祭りをしたのです。公民館の各サークルさんから全てで23あるのですが、サークルさんのお1人ずつが準備に丸1日出てこられたり、今まで自分たちのサークルの中だけでやっていたことを、何か具体的に地域と結びつくような行動として始まったと思います。学んだことを生かす場として、学校や地域があり、自主的というよりもしくみとして、公民館を使って活動しましょうというようなことも大事だと思っております。

草津市の生涯学習課の方にお聞きすると、そのような方向でも動いているとお聞きしました

ので、是非、このことは入れていただければと思っています。

【委員】

視点がずれるかもしれませんが、ボランティアの人材確保という面から、当然いろいろな年代の方が入られると良いと思います。しかし、中堅どころとなりますと、どうしても仕事为中心になり、ボランティアが難しいと思うのです。しかし、団塊の世代が退職を迎えるということになると、何かそれがひとつのきっかけにならないかと思います。これまでからもかなり高齢者の方がボランティアとして入ってくださるケースが多いと思います。今後さらに辞められた方＝退職された方の第2の人生の生き甲斐という、そういう視点から、「あなたも何かできることをやってみませんか」というような視点でボランティアを募っていけばどうでしょうか。私も退職したら特に、趣味もないし、自分の力が役に立つようであれば、地域でのボランティア活動に取り組んでみたいという気持ちも持っています。認知症防止という観点を含めて、第2の人生をいかに送るかという課題に対して、その1つにボランティア活動がありますよというPRもしながら、人材を募っていくというようなこともひとつのチャンスであると思います。



【委員】

私も、石部小学校の方へ行かしていただいて、コーディネーターさんが校門の横の事務室にどんと構えておられて、できたら鍵が自由に開けられて土・日も開放出来たら良いのにとおっしゃられておられました。学校が拠点となり、コーディネーターさんが各校に1人ずつおられるというのはお金もいります。全体的に言って滋賀県下でできるようにしようと思ったら、まず、市町の教育委員会が中心になってとなるのでしょうか、長浜市なんか合併をしましたので非常に広く、旧町ぐらゐの単位でコーディネート的なことをする人がおられると、学校にとってはやりやすいのではと思います。残念ながらできなかつたら、教育委員会のある役所とか公民館とか、そんな所でも良いので、誰かそういう人がいてくださって、いろんな各種団体の人がつぶやけるような組織があれば良いと思います。できればそれは、上からの指示によるものになるかもしれませんが、地域のことは地域で活躍してくださる方もあり、上からもそういう仕組みもでき、具体的にうまくやっていけるようになることがベストではないかと思います。これからの県の在り方としては、循環型になるのかというように考え、大学生もいて、いろんな世代の方もいて、和気藹々でやれるような仕組みがあれば本当に良いのではないかと思います。

【委員】

雑感ですが、テーマは今回「学校を拠点とした地域連携による生涯学習の環境づくりについて」ですけれども、むしろ逆に「学校を拠点とした地域連携による生涯学習の環境づくり」から「地域を拠点にした学校が地域と連携した生涯学習の環境づくり」というように、何でも学校が拠点になるというのではなく、むしろ地域の中にそうした学校のような拠点というものをこれからつくっていく必要もあるのではないかと思います。地域の中にそういう拠点があればその中にコーディネートされる方もいろいろ取り込んでいくというふうなことが必要ではないかと思います。私は、学校におりますので、むしろ当然学校というところはいろいろな所で、活用もしていただく大変有り難い面もあるのですけれども、逆にもう少し地域の中に拠点をつくっていくことも必要だと思っています。



そのために学校も何かできないかなという立場で思っております。先程、先生もおっしゃたように私もあと数ヶ月で退職するのですけれども、団塊の世代の後なのです。

日野原先生。100歳になられたんですか。「いのち」「時間」のことを良く言われます。自分の時間をどれだけ他の人のために使えるのか、それを「いのち」ということで良い言われておりますが、そこにボランティアの活動、キーワードは「やっていて楽しいという」ことがひとつだと思います。「いつでもできる 気楽にできる」ことです。

私は、今、人権の代表として来ているのですが、人権というのは堅苦しい。よく言われる窮屈、人権の講座は堅苦しいということがありますが、人権というのも最近は落語をされたり、参加することでこういうことなのか分かったか、わくわくするとか、この活動に参加して良かったなというところの視点で、ネーミング1つにしても大変大事だと思います。

私の地域でも夏休みだけに限って、地域の中で「子育てサロン」とかで子どもの宿題をみるとか、それ限定なのですが、退職された教職員のOBの方が自主的に子どもたちに、文部科学省の寺子屋かなんかじゃないんですけれども、お寺でされている場合もあります。気楽にされている活動を例えば学校から紹介をし、他の地域にも波及していけば良いかなと思います。そういう意味での学校の役割。地域の方にそういう活動をしていただけるような支援がコーディネーターかと思います。学校貸しのコーディネーターみたいに思っております。

【委員】

私は、堅田小学校へ見に行かせていただいたのですが、たまたま隣の町のことなので、何となくよく知っているのですが、私が子どもの頃には、堅田小学校のブロックはたいへん広くて、仰木や真野のあたりまでがエリアでしたが、今は堅田の商店街を中心にした1小学校1中学校の学区になってしまいました。お父さん同士が小学校からの同級生というような地域であり、そこに食い込んでいこうと思ったら、「おや連!」のような誰でもどうぞというようなところが必要であると思いました。もともと出来上がったような町では、商店街で小さい時からずっと住んでいてつながりのあるところに、新しい住民が、同じように入っていくためのしかけづくりが大切だと思います。代表の方もそういう方だったと思うのですが、マンション族が地域へ入っていくための「きっかけ」が「おや連!」だったのではないかと思います。

また、堅田の地域のことを言うと、湖族祭りとかPTAの活動とか、地域の行事が多い学校なのです。この前にあった11月の小学校のPTA主催の行事でも、中学校の先生まで休日出勤で、月曜日は代休であったというくらいに気合の入った活動をされています。夏の湖族祭りでは船に乗って競走する催しに「おや連!」の皆様も参加されていました。もともと商店街のグループもあるし、小学校の先生や、中学校の先生も1つずつグループを作って参加するような祭りに参入され、地域づくりの「きっかけ」になったこのような事例は、学校を媒体に親が地域に入り込めたというすごく良い例だと思います。そういう視点で言えば、学校を拠点としたまちづくりとか生涯学習活動のすごく良い例ではないかと思います。

もうひとつは、アンケートの中にはなかったのですが、入れていただけるかどうか分からないのですが、今回の震災で、昔から津波の多い地域で、防災教育が徹底されているところがあって、中学生がひとり暮らしの老人の家に「今〇〇しています」(外出しています。在宅中です。)といった札を作って配布し、玄関先につるしてもらって、救助する際にすばやく確認することのできるシステムがつけられていたという話や、近くにある保育園に先ず中学生が駆け込んで、抱っこできる子を抱えて山に走ったとか。中学生や小学校高学年になると、支援される側では



なくて、支援する側として地域に出て行くに十分な人的資源であるという視点も、学校を拠点としたということから言うともっとあっても良いのかと思います。

【副委員長】

副委員長の立場で言うのも何ですけれども、事務局は非常に頑張っていてくださって、まとめの骨子をうまく作ってくれたなあと感謝しております。やはりこういうものを作って、我々県の社会教育委員だけが作った作ったと満足しているのでは駄目なので、これが生かされるということが大事だと思います。私も県社会教育連絡委員連絡協議会の会長を預かっておりますので、各市町の理事・会長さんの席でもこれを広くアピールしたいと思いますし、また学校の方では4・5月に全員校長研がありますが、是非生涯学習課の方でもこういうまとめを配っていただいて、課長や参事の方からこのように滋賀県の生涯学習を進めたいので宜しくということで、ピアールをしていただきたいと思います。あまり難しい文章ではなくって、誰でも読んでいただけるような形で今後工夫を重ねていただきますようお願いいたします。



【委員】

気がついた点を数点申しあげます。ずっと「コーディネーター」という言葉で出続けていますが、この「コーディネーター」という言葉がまとめの文章中に出てきた時に、その意味づけは明確にしておいた方が良くと思います。「コーディネーター」という役割は、個人としてコーディネートされている方もいらっしゃる、読書ボランティアのように何人かが集まって活動されるグループも「コーディネーター」という考え方もあるようです。多少揺れがあるようです。まとめの読み手が「コーディネーター」というものを1つの姿で描かないように、いろいろな「コーディネート」の姿、やりかたがあるということ、文章の中できちんとうたっておくことも必要かと思えます。また、学校を拠点にした取組の中で「コーディネーター」だけが活躍したとなると、話しはだんだん分からなくなってしまいます。個別的ボランティアの「コーディネーター」もあれば、石部小学校さんのようにきちんと活動の場の保障が受けられるたくさんの方がいらっしゃる、その取組の仕組みが地域のつながりや絆を織り成していくという成果を演出する局面で「コーディネーター」という概念はとても大事だと思います。



もう1つ問題を整理させていただくと、学校という施設を利用し拠点として活動するという観点。それと地域の結節点としての強い磁場みたいなものを持っていて、ひとやものがこたが吸い寄せられてくるぼわっとした「学校というイメージ」に、人々が集まり何かが始まることとは分けて考えた方が良くのではないかと思います。作用点の違いとでも言えるでしょうか。

それから、子どもに向けて学校教育に関わっていくというベクトル（方向と力の力点）と、学校を使いながら地域社会が生涯学習という観点で広がりを見せているんだというベクトルですが、両方のベクトルがあると思うのです。学校に向けての協力をしていくという力と、それと学校を使って、学校というものを道具にして社会に広げていくというところのベクトルがあります。矢印が両方あるということ整理しておかないと、読み手がやはり混乱するのではないかということをおもいました。

最後に、他の委員がおっしゃられたように、コーディネーターという役割は大変重要ですが、なかなか育たない。優秀な人が居ない訳じゃないですけども、そんなにたくさん輩出するものでもない。それを支えるバックヤードとして、行政と言いますか、教育委員会なり

がコーディネーターのコーディネーター、いわゆるトータルコーディネーターの役割を受持つ持つか、中間支援という言い方をしますけれども、専門的な知識を持った人が、コーディネーターはこういうことをするんですよというような、現場のコーディネーターに伝えていくようなしくみをつくって支援していくようなことは大事であると感じました。

【委員長】

しっかりと整理の枠組みを作ってください有り難うございました。こういうことも含めてまとめていきたいと思えます。少し時間が過ぎてしまいました。今日は、みなさんからいろんなご意見・ご提案がいただけてよかったと思っております。みなさんのご意見を、また反映させながら報告書を、私も含めて事務局の方で作成して、みなさんにご覧いただきながら最終的に作ってきたいと思っております。どうか宜しくお願い致します。

○その他

【事務局】

その他として2点お願いしたいと思えます。「参考資料3」をご覧いただきたいと思えます。今後の日程等に関わる内容であります。裏面になります。11月9日は、第4回社会教育委員会会議、本日開催です。次、3月9日(金)に委員長さんと事務局で決定させていただきました。丁度、卒業式シーズンでお忙しいとは存じますが、どうか宜しくお願い致します。なお、委員長さんもおっしゃれましたように、報告書の原案を1・2月の間に作成し、委員の皆さまにFAX・メールでお送りさせていただきますのでどうかご意見を頂戴したいと思っております。それを受けて、再度3月9日にご協議を戴いて、最終的には3月末には報告書として完成させたいと考えておりますので、どうか宜しくお願いしたいと思えます。それが1点目です。

次に2点目。「参考資料4」になります。本日時間の関係で、内容が多くて十分にご意見を頂戴できなかったことを誠に恐縮に存じます。その「参考資料4」で、何か報告書を作成するにあたり、この部分で「このあたりのことが書かれていると良いのでは」ということがございましたら、どの章でも結構ですので、この「参考資料4」をお使いいただき、FAXいただきますよう宜しくお願い致します。なおこれと同じものは、メールでも送らせていただきますので、ご回答いただきますとありがたいと存じます。なお、11月22日締切と日を切っておりますが、その日ぐらいいまでにお送りいただきますと誠にありがたいです。どうか宜しくお願い致します。

【事務局】

1点だけご連絡をさしあげたいと思えます。皆さま方のお手元にごございます机上資料、ファイルに挟んでいるものをごございますけれども、前回もご案内させていただきましたとおり、その中から抜き取っていただき、お家の方で読みたいと思われ資料につきましては、お持ち帰りいただいても結構でございます。次回の会議の時に、お持ちいただければ結構かと思えます。



閉 会

【委員長】

それでは皆さまどうも長時間ありがとうございました。今後ともどうか宜しくお願い致します。

